

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念「ほっとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている。また全体会議、内部研修、個人面談等折に触れ理念について確認している。	「福祉の仕事は感謝の仕事」と職員の気持ちを統一し、「はじめに利用者ありき」の理念を内部研修、個別面談で確認して、日々のサービスに繋げていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	開所から3年が経過し、少しずつ認知はされてきている。恒例となりつつある、ときわ祭りにも多くの方が来場いただいているが、保育園等との関わりが持っていないので、次年度はそこに力を入れていきたい。	コロナ禍の中、ホールでのブドウ狩りやドライブの実施、時間を見つけ散歩に出掛けたりして外気に触れていました。引き続き、近隣地区の保育園や小学校との交流会の実施に向けた検討を望んでいます。	コロナウイルスの終息を待ち、地元地区の小学校や保育園との交流実現に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症対応型の施設であることを発信しながら、施設見学者や行事のボランティアさんの来所時など折に触れて、認知症への理解や悩み事、支援方法のお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	今年はコロナの関係で運営推進会議の開催を見合わせており、会議での意見というのがいただけない状況にあった。11月より開催を再開予定である。	開催できない運営委員会は、近況報告を書類にし、意見やサインを求めて返信して頂くようにして連絡を取り合っていました。コロナ感染症警戒レベルの確認をして、会議の開催実施に向け取り組んでいました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議、介護認定調査など行政の方が来所した折に事業所の日頃の様子を見て頂いたりして情報交換をするようにしているが、今年はコロナの影響で機会を持つことが少なくなっている。	今年はグループホームに隣接した田んぼの地主さんから耕作をしないかとの話を頂き、地主さんをはじめ、区長さん、元民生委員さん等々の協力を得て実現、収穫時に入居者の皆さんと収穫祭が開催できました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修や勉強会を行い、意識の共有化を図って身体拘束禁止を学び、日々の言葉の拘束等を含めお互いに注意しあっている。付き添える範囲で気分転換に積極的に散歩するなど心がけている。	法人内でリーダーシッププロジェクトを立ち上げるなど、スタッフの育成や統一した介助、支援を図ることで、身体拘束の理解を深めると共に、拘束ゼロで健全な暮らしを目指していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め、防止意識を高めている。実施例として、入浴時などに身体に外傷が無いか、チェックし報告、原因の明確化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については行政機関の行う説明会に参加して理解を深めている。現在制度を利用している利用者はいないが、ご家族にも制度を利用する様に必要に応じて説明をして制度の周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に一つ一つの「利用するための契約」「身体拘束」など契約書類を分けてわかりやすく説明できるように配慮して、時間をかけて説明している。また、数名のご家族、関係者に同席を求める様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の様子、施設の取り組みを「信濃ときわの家のたより」として毎月発行している。運営推進会議でも配布して周知しているほか、内容についてのご意見を面会の折などに伺い、意見が有った場合は会議で報告している。	毎月発行しているホーム便りは、例年通り個々の様子を一言記入して、元気な様子をご家族に伝えていました。コロナ禍の中、家族との面会が実施できませんが「ときわの家のたより」に、苦情受付の一文を最後に必ず記載してありました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成28年4月より人事考課を導入している。職員は年2回の自己評価をし、その後、面談を行なっている。その個別面談で評価を反映する機会を作ったり、全体会議、ユニット会議で意見が反映できる環境となっている。	管理者が変わり2年目を迎え、職員の顔ぶれも少し変わっていましたが、理事長をはじめとする定期的な面談の実施で、資格取得を目指している方、夜勤のできない方等の要望を聞き入れて、働きやすい職場づくりに心掛けていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を生かした働き方を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修を行なっている。研修テーマは、介護現場に必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。希望者は外部研修にも参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当社法人グループ内の事業所職員と交流を図ったり、外部研修などで他の事業所の方との意見交換を出来るようにしている。GH、小規模多機能施設等連絡会への参加も勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、本人との面会を行い、様子や性格、生活歴等の把握に努めている。入所後1ヶ月程は特に様子を見守り、関係性を大事にして利用者の気持ちを引きだせるように気を配り、情報の共有化を図って、安全・安心感に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方にも、今まで家庭でどんな風な生活をされていたかを伺い、グループホームでの生活との違いを理解して頂き、家の生活を継続出来るように、家族の不安や要望に沿えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に現状を十分にお聞きして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き状況により他の施設を紹介することも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	笑顔を絶やさず、利用者主体で「おひさまな暮らし」を合言葉とし寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の「おたより」に利用者の方々の近況や出来事、生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。行事にも参加して頂けるように声掛けもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出時に馴染みの場所に立ち寄りたり、一人ひとりの大切な人との繋がりや思い出が途切れないように支援している。家族や友人の面会は何時でも来ていただけるように開放している。	感染症対策の関係で、馴染みの場所への対応が難しい中、敷地内でシャボン玉を飛ばしたり、流しそうめんを楽しんだり、紅葉狩りに大町ダムまでドライブに出かけるなど、ストレスをためないように努力されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の相性に合わせた席を考えている。穏やかな交流が出来るように、コミュニケーションが図りやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば、失礼の無いように様子を伺ったり、その後も相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室や入浴時など日常の会話の中で、ここでの生活のしづらさや意向や希望を丁寧に聞いて、その後も相談に応じている。	入居者の皆さんは、殆どリビングで過ごされているので、唯一入浴の時間が個々の思いを聞き取る日常の場面となります。その時間を有効に使い、利用者の思いを聞き取り職員で共有し、その後の支援に繋げていました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に本人の意向を大切に、家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かさせていただき、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日その日の様子を観察、スタッフ同士の引継ぎを大切にして現状の把握に努めている。毎月実施している全体会議で情報を持ち寄り、スタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネとスタッフは、利用者の日常の様子把握に努めて、全体会議で評価を行い、介護計画の見直し改善を図っている。本人・家族の方の意見がプランに反映できているかを面会時等に伺い、同意を得ている。	コロナ禍の中、外部からの関係者の出入りは、慎重に行なっていますが、日々の様子は介護計画をもとに記入しやすい独自の記録方法の継続で、今後の介護計画に繋げていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や介護計画の実施記録には、日々の気づきを書き入れ、スタッフ間で情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の中には、レクリエーションで体を動かす体操をしたり、お話や触れ合いを楽しみにされる方もおり、CD・DVD・カラオケを活用して音楽や映像を使い活動的なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域自体の活動が少なくなってきており、参加がなかなか難しくなっているが、個々への支援ではなじみの美容院にて散髪できるようにするなど配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は入所時に、本人・家族に選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。又スタッフも情報を共有して、受診後の様子をしっかりと伺いして必要に応じた対応をしている。	現在体調を崩されて、自室で静養されている方が1名いましたが、その他の方々はお元気で、訪問した日も定期通院で馴染みの病院を受診する利用者さんがいました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師の往診(月に一回)と毎週火・金曜日に看護師の訪問を受ける。その時には利用者の様子をお伝えして、変化のある時には、電話などで相談し対応方法などを教わりながら必要に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やスタッフが面会に行ったり、家族に状況をお伺いして、情報交換をしている。また、医療機関に電話をし、情報交換をして利用者が困らない関係づくりが出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針について、説明をして同意を得ている、重度化が見られ始めた時点から、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を双方で理解納得の上、共有し取り組んでいる。	利用者の状態変化に伴い、ご家族と確認し合い、その時々々の希望に沿った対応で、看取りに取り組む方針でした。今年度も肺炎で入退院された方はいましたが、直ぐに退院できて、皆さん変わらぬメンバーで過ごされていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み、勉強会を行っている。利用者の予想される急変に関しては、スタッフの中でリスクマネジメントの情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。当年は防火管理者による初期消火、消火器の使用法、119番通報について指導、講習を行っている。いざという時のために地域消防署や地域の方への理解協力をお願いしている。	地域消防署や地元消防団との連携で、年2回の避難訓練を実施していました。今後も地域の方の理解、協力を得られるよう働きかけを継続していただきたい。	県内を襲った大きな台風被害を身近に捉えて、再度全職員で認識を高めた避難訓練の徹底を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別で相談に乗る場合などは、居室等に場所を変えゆっくり話ができる様に配慮している。また、呼称についても要望をお伺いし、ご希望に沿った呼び方で対応している。	利用者さんの顔ぶれは昨年と同じで、皆さん変わらず元気に過ごされていました。年々明るくなり、生き生きと行動的に過ごされている様子を今年も拝見でき、日々の対応の成果を感じられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が遠慮なく想いが表現できるように、こちらから積極的に要望を聞くよう常日頃から取り組んでいる。また、要望があった場合はノートを用いてスタッフ間で情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日一日の体調や気分の様子を伺い見守りのもと、その日を穏やかに安心して過ごして頂けるように支援している。天気の良い日は、外気に触れて過ごせるように、積極的に散歩などの参加を呼び掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	全員ではないが、好きな服装が出来る様に一緒に買い物に出掛け、洋服を購入するなどの支援をしている。また、季節に合った装いがしやすいようにタンスの整理などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立表には出来るだけ利用者の希望を反映させるようにしている。食事の準備から片付けまでを利用者の力量に合わせて、参加して頂いている。自発的に手伝いをして下さる方も多くスタッフと一緒に楽しんでいる。	日々変化する利用者間の関係性に配慮し、今年度も昨年度と違った食卓の配置になっていました。今年はコロナ禍もあり、利用者参加型の調理会は、例年より多く実施できていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は毎食欠かさずチェックしている。その日の体調等に合わせて、出来る範囲で個々に合わせた献立や調理方法で対応している。必要に応じ主治医と連携し、栄養補助食品の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け誘導して、自歯の方は歯ブラシを、義歯の方の口腔ケアは付き添い見守りのもとで実施している。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。本人の希望で歯科主治医往診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のサインを見逃さないように観察しているほか、定時に声をかけて促している。夜間も個別のタイミングで誘導をして快適に過ごせるように配慮している。	各部屋にトイレがあるので、失禁の回数が増えても、トイレの認識が出来ており、感覚も鈍らず、尿意の低下防止に繋がっていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用しながら、便秘予防に食材の工夫や牛乳、ヨーグルトなどを取り入れて、自然排便を促すようにしている。適度な歩行訓練を心掛けている。必要に応じて医師に相談して下剤服用などでコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は利用者の希望を確認しながら、健康状態や精神的な面も見極めて、一週間に最低2回以上は利用できるようにしている。入浴中は会話を楽しみながら入浴が出来る様に支援している。	入浴回数は、最低週に2日以上入れるように計画され、個々の希望に応じていました。入浴は職員と1対1で過ごせる唯一の時間で、普段なかなか聞けない本音トークが聞けるなど、職員に心許す大切なひと時となっていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はレクレーションの間にもご本人が休みたい時に休めるようにしている。夕食後の就寝時間は自由で、一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理をする様に支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬係を主に、スタッフ間で薬の変更や服薬についての情報を共有し理解するために申し送りノートを活用したり、誤薬の無い様に3回確認している。主治医には必要に応じ服薬について相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一日を通して食器拭きや洗濯物を畳むなどそれぞれの役割を持って楽しみながら生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かい季節は施設周辺の散歩を日課として提供している。個別の外出支援として、馴染みの美容院への付き添いや、嗜好品の買い出し支援を時々している、全体では、お花見や、紅葉狩りにでかけ、外食も楽しんでいただいている。	今年度はコロナ禍となってしまったので、天気の良い日はベランダで日光浴やシャボン玉を楽しんだり、七夕の日は野外での夕食、花火大会やそうめん流しを企画し、紅葉狩りは大町ダムまでドライブに出かけていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお小遣いとして、持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かっていて、本人・家族の希望で使える様に支援している。嗜好品として飴玉を定期的に購入している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の所に電話をしたいという希望があれば、どんなお話をされるのか、少し内容を確認させて頂き、自由に電話が出来るようにしている。年末にはスタッフと一緒に年賀状を書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の移ろいがわかるように、季節ごとの飾りや花などを飾るようにしている。また、暖かい季節は窓を開け外気を十分取り込んでいるほか、散歩や日光浴をするように積極的に勧めている。居室トイレは1日2回は清掃をし衛生に十分に配慮している。	今年度は外出自粛になり、室内で楽しんでもらえるように、春には室内に手作りの桜の木を作ったり、敬老会で中止になった夏祭りをテーマに、室内でヨーヨーや提灯づくりを楽しみ、綿あめ、かき氷、たこ焼き等も楽しめるお祭りを開催していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居室で、ひとりになれる空間を提供して、ホールでは仲良しな利用者同士が気楽にお話ができる様に、食事の席の配慮をしたり、思いをお伺いして楽しい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入所前の生活の継続性を尊重して、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみや遺影を飾っていただいている。時々、一緒に整理することで思い出に浸って頂く配慮もしている。	こだわりのある方の独創的な部屋や、すっきり片づけられた部屋など、自由で個性豊かな居室となっていました。自宅から持ち込んだタンスや仏壇に遺影が置かれるなどそれぞれが心地よく過ごせる空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部にはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人が分かりやすい様に貼り紙で名前を付けたり、トイレには大きな文字で明記したりと分かり易い様工夫をしている。		